

普及活動情勢報告（令和2年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

農福連携による障害者雇用を～障害者就業・生活支援センター職員がニラ出荷調製作業を体験～



ニラそぐり体験の様子

10月2日、障害者就業・生活支援センター「こうぼん」の職員が四万十町内のニラ生産者の出荷作業場でニラのそぐりから計量・結束までの出荷調製作業を体験しました。

四万十町農福連携推進協議会が取り組んでいる、農産物の出荷調製作業に障害者の労働力活用を推進する活動の一環です。

参加した職員からは、「障害者が出荷調製作業等で農業分野の仕事をすることが可能だと周知していきたい」との意見が聴かれました。

普及所はこれからも、四万十町農福連携推進協議会と協力し、四万十町の農福の連携を支援していきます。

安心安全なニラを消費者へ届けるために ～ニラ部会目慣らし会の開催～



目慣らし会の様子

10月14日と16日に、JA高知県四万十ニラ部会目慣らし会が開催され、37名の生産者が参加しました。

普及所は、収穫から出荷調製時までの作業時の道具類の洗浄・消毒の重要性や、出荷調製場の明るさの改善などについて説明をしました。生産者からは、「人に食べてもらうものを作っているんだから、面倒でもやらんといかんね。返品や市場事故を無くせるように、みんなできりあう。」など前向きな意見を頂きました。

普及所は、今後もJA等の関係機関と連携し、産地の維持・発展に向けて取り組んでいきます。

手摘み一番茶の品質向上を目指して ～秋整枝現地講習会の開催～



秋整枝講習会の様子

10月20日、JA高知県十和支所茶業部会の秋整枝現地講習会が開催され、16名の生産者が参加しました。

普及所は、秋整枝作業の作業適期（平均気温18℃～19℃）について、過去2年と当年の10月平均気温（アメダスデータ）の推移を示し、10月下旬～11月上旬が作業適期であると説明しました。

茶業試験場は、秋整枝前の茶園観察や秋整枝の深さの決め方などを説明しました。生産者からは、「まだ気温が高く、降雨があるので25日過ぎから始めんといかんね。」「茶園の芽数や樹勢を知ることは大事やねえ。」などの前向きな意見を頂きました。

普及所は、今後もJA等の関係機関と連携し、茶産地の維持・発展に向けて取り組んでいきます。



生産者への聞き取り調査

10月7日から、JA高知県十和支所ユズ部会（60名）を対象に関係機関と連携し、ユズ生産者へのアンケート調査とほ場の確認調査について、個別巡回を行いました。

普及所は、今回の調査の意義や調査で得られた情報を産地の維持、発展に活用することを説明し、栽培面積、労働力、後継者の有無、青果出荷の有無、作業受託、樹齢、本数、園地条件などの聞き取り調査を行うと共に、タブレットを使って園地の位置を確認しました。

生産者からは、「剪定・除草・農薬散布・選果作業が困っている。」「後継者がいない、未定。」「園地を貸したい。」などの意見が多くありました。

普及所は、今後もJA等の関係機関と連携し、園地マップの作成に向けて取り組んでいきます。